

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0571213958		
法人名	社会福祉法人 こまくさ苑		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所田沢の家		
所在地	秋田県仙北市田沢湖生保内字上清水698		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様ができることを尊重しながら生き活きと暮らせるようにサポートいたします。ご利用者様と職員と一緒に生活する場となり、個人の思いを聞き、寄り添いながら笑顔で明るく、安心感のあるホームで過ごしていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年11月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地から離れていることから日常的な交流は難しいものの、敬老会や盆踊り、学校行事にできる限り参加して地域の方と触れ合えるよう支援しています。重度の利用者に対しては、医師の意見を参考にしながら寝たきりにせず、ホールで他の利用者の中で一緒に過ごせるよう配慮し、また、心身の機能が徐々に低下してきている利用者も多く、家族の思いを理解しつつも帰宅できる機会をつくってあげられるよう努力しています。モニタリング結果を家族に送付して利用者の状態を報告すると共に意見の記入欄を設けて返送していただき、家族の意見、要望の引き出し方に工夫がみられ、成果も上げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から、ホーム独自の理念を申し送りや、ミーティング内で共有し、利用者様の対応に迷った際は、掲示してある理念の確認を行い、実践につなげています。	管理者がミーティング、サービス担当者会議で日々の支援が理念の基本となることを話し、職員はそれを理解して取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	立地条件から地域住民と離れた場所にあり、日常的な交流は難しいものの、毎年、保育園や学校行事、敬老会への参加で馴染みの関係性や自宅周辺の方々から声をかけていただけるようになっています。	学校や地域の行事に参加して地域の方や知人に会うことができおり、そのような機会を通してできる限り交流できるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症サポーター養成講座へ職員派遣を行い、実際の対応例を紹介し理解を求めています。民生委員や集落でリーダーを務めている職員もおり、施設のレクリエーション用品の活用をいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の実際の暮らしがわかりやすいように、ホームのホールや食堂で会議を開催。委員から出された意見、質問等会議録や送りにて報告。サービスの向上に活かせるようにしています。	ホームの活動報告及びそれに対するさまざまな質疑があり、災害対策についても法人としての取り組み等を参加者に伝え、家族からの発言にも意向をくんで運営に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症多職種研修会や包括支援センターで開催する交流会に参加。グループワークにより多職種の方々と情報交換を行い関係性を築いています。	研修に参加することで地域の問題等を話し合うことができ、情報収集もできています。サポーター養成講座講師の依頼にも協力し、相互の協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束防止の指針も出され、講演会へ参加。わかりやすい説明があり、ホームで報告会を開催。職員全員で確認し合っている。玄関、自動ドアの施錠は防犯のために夜間のみとなっています。	法人としての指針を示し、適正化委員会の内容は全職員に周知されており、職員の意識向上に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、身体拘束の防止と合わせ、報告会を開催。通報の話や不適切ケアの実例をあげ互いが声かけや振り返りを大事に対応をしていくことを確認し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用はありません。本人、身元引受人等の関係者と連携をとり、個々の状態にあわせて、制度に対する理解はあるために、必要があれば対応をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の書類を事前に渡し、不明なこと等に対応できるようにしています。また、改定時も遠方の方には、電話での説明を行ったりし理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画の説明時や面会時等、職員からの声かけにより意見、要望を聞くようにしています。直接ではなくても、家族様からはモニタリング用紙内に意見、要望欄を設け、何でも書き込んでいただけるような配慮をしています。	モニタリング結果を送付し、何でも書いていただける欄を設けて意見を引き出しやすい工夫をしています。出された意見を全職員で検討し、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングで意見や伝えたいことを話す機会を設けています。代表者が直接声をかけてくださる時もあります。大半は事務部を通してとなりますが、事務部と職員はいつでも話ができる環境づくりができています。	法人として職員の意見を聞くシステムをつくっています。管理者も現場で介護にあたっていることから職員との垣根は感じらず、日常的に意見が言いやすい環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	兼務の業務を行っている職員はやりがいはあるものの、ハードさを感じていると思います。給与が上がるか、職員が増えるか期待します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が参加したい研修を募ったり、すすめていたりしています。施設内の勉強会や報告会をすることにより理解を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種交流会や研修会の参加により、情報交換を行い、施設内で報告、向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談の受け入れ、訪問調査の時間をゆくり持ちいただき、馴染みの関係や確保に努め、会話の中から不安なことや要望をみつけたりしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時より、相談に応じるようにしています。利用に入る際には、訪問調査の実施で、話を聞いたり、随時相談に応じる良い関係を築いています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態の観察や入居前情報により、本人のできるを大切にし、一緒に物事を行うようにしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ施設での本人の状態を伝え、面会、外出、外泊の依頼により、ゆくり過ごしていただく時間を設けていただいたり、受診の同行依頼により、本人の状態の把握を行っていただき、お互いの安心を得ていただくようにしています。会話の橋渡しをし、本人を共に支えていく関係を築かせていただいております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様のご協力により、隣近所や親類の方々とお会いできる機会を持っています。	帰宅したり、電話をかけてくれたりと家族が馴染みの関係が途切れないよう協力してくれています。家族交流会には職員が全員出席して家族との関係づくりにも努め、支援に繋げることができるよう取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や精神状態にあった方々が会話を持つように間を持つ対応をしています。時に体調不良の方に声をかけたり、互いを誘い行動を共することを見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居後も、面会や相談に応じ、フォローしています。 場合によっては、法人全体で相談に応じていく対応も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前情報を大事にして、希望や意向に応じられるように努めています。 日頃の生活の行動や会話の中から一人ひとりの思いをみつけ、担当者会議、ミーティング、申送りで検討を重ねることにしています。	利用者の行動や表情をよく観察し、日常会話からも思いを汲み取るようにして申し送りで共有し、ケアに反映できるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用状況については、申込み受付時に確認し、訪問調査時に、サービス提供者の情報を得たり、家族や本人からの聞き取りにより、より多くの把握に努め、その人らしい暮らしを目指しています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしで、会話、行動の中から本人のやりたいこと、できることをみつけ、サポートによって満足が得られるように対応をしています。 バイタルチェック、体調の聞き取りにより、無理のない過ごし方をしている時もあります。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、担当者会議、申送り時、出された課題を話し合うようにしています。 家族様からも来所時意見をいただいたり、書面にて意向、要望を提出いただき、計画に反映させています。	職員それぞれが意見を出し合い、家族にも状況を確認していただいた上で要望を出していただき、現状に即した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入。管理日誌や申送りにて共有を図っています。 ミーティングや担当者会にて話し合い計画、実践に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や学校行事、敬老会への参加、ボランティアの来訪を受け入れ交流をしています。一緒に楽しんでいます。買い物や外食、気分転換ができるように支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望の病院への受診対応や、歯科の往診もあります。受診については満足いただいています。法人内の看護師との連携もとれており、安心いただいています。	希望に沿って対応しており、必要に応じて家族に同行を依頼し、適切に医療支援できるよう取り組んでいます。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の介護老人保健施設、介護老人福祉施設の看護師と連携がとれており、状態変化時や不安があった際には相談ができるようにしています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ホームでの状態や暮らしぶりの情報提供や職員の面会を行い、家族様との連携を密に本人の状態を確認できるようにしています。面会の際には事前の連絡調整にて病院の連携室や看護師と話ができるようにしています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約や状態変化時に、リスク説明を随時行いながら、意向の確認や対応についてホームでできることをはっきりさせ話し合いをしています。状態や意向によっては法人内の施設を利用されるケースもあり、法人全体で支援していきます。	利用者の状態に応じて法人内で連携した支援が行われています。医師の意見を確認し、家族の意向を尊重した上で、ホームとしてできる支援を行っています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命措置講習を職員全員が受けるようにしています。利用者様の状態を確認しあったり、病歴の把握をしています。また、ヒヤリハットや状況報告発生時に、救急の措置や連絡の仕方について確認しあっています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害想定により訓練を実施しています。法人内の施設職員の応援や避難先として利用できるように協力体制をとっています。地域の消防分団へ施設の見取り図を渡しています。	法人の協力体制の下、ホームの対策をたて、定期的に発電機の確認も行っています。設備の問題もあり、指定避難場所より近い公共施設を避難場所にできるよう行政に働きかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や行動を把握し、個々の意を引き出せるよう会話をよくもち対応をしています。家族様同様な親しさを持つように接していますが、節度を持った声かけをしています。	家庭的な環境と言えども、節度ある接し方ができるよう努めています。職員同士が会話する時には利用者に配慮できるよう心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持ち、思いを傾聴。自己決定できるような話しかけをしています。会話の難しい方は、行動を見守り、自分の思いが表出しやすいように環境を整えるようにしています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務を細かく変更したり、状態や本人の意志に沿って入浴日の変更を行っています。その人なりのペースを保てるよう強く日課の声かけをしないようにしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望により、美容院の利用や化粧品の購入をしています。 職員と一緒に好みの服や季節にあった衣類を選んだりしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事食、伝統料理を一緒に作ったり、時には外食を食べて楽しんでいます。個々に合わせて食事形態を工夫し、自分で食べる喜びを持っていただいています。	利用者は座ってできることを手伝い、職員と一緒に楽しく会話しながら食事をしています。サポートが必要な方には隣に座り、時間がかかっても自力で食事ができるよう見守りながら支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量のチェックを行い把握しています。 好き嫌いを情報提供いただき習慣化している食べ物や飲み物があれば準備しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は自分で行っていただいておりますが、食後の口腔ケアの声かけは行っていきます。必要に応じて歯科の口腔ケアを定期的実施している方もおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	動きに合わせて排泄への誘いを行ったり、時間で声かけ誘導を行い、失敗の減少に努めています。自分でできやすい衣類の選択をしたり、必要な排泄用品を個々に合わせて準備をしています。	トイレでの排泄を基本に支援が行われています。何らかの介助が必要な方にも自分でできることを検討、工夫しながら支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態が続かないよう、排便の有無をチェックしたり、乳製品や食物繊維の多い食材の使用を心がけています。必要に応じては下剤の使用をしています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望をとりいれた入浴日を設定していますが、気分がのらなったり、体調不良がある際は気軽に変更できるようにしています。風呂への入り方や入浴に要する時間は見守り満足して入っていただくようにしています。	拒否がある時にはタイミングをみて誘ったり、その人の入浴状況によって柔軟な対応をしています。浴槽をまたぐのを恐る方には補助用具の使用を薦めて促し、安心して入浴できる工夫をしています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビをみながら寝入ったり、就寝時間はなり気に任せています。休息に対しても体調に合わせてたり、取りたくない方はホールで過ごしたりすることを見守るようにしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関へ状態の報告を密に行い、薬処方いただくようにしています。受診後の報告を職員へしっかりと伝え、処方箋を介護記録の中へ添付し、いつでも薬の確認ができるようにしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる作業を行っていただいたり、職員と一緒にすることにより満足を得られるようにしています。レクリエーション内容を選択いただき楽しんだり、外でのお茶会を開き気分転換できるようにしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散策や季節、行事に合わせての外出支援をしています。職員との食材の買い出しや、外食を個別に応じています。家族様との外出、外泊は希望通りにできるようにしています。	寒い時季を除いて毎月1回は企画して外出しており、2~3人での外出も行っています。帰宅して懐かしい人に会ったり、駐車場の一面でお茶やグランドゴルフを楽しんだりして戸外で過ごせる支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方はお金を持っている方もおります。 外出時等お金を渡し、職員と一緒に買い物をし、お金を使う機会を持っていただいています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にある公衆電話は自由にご利用いただいております。事務所内の電話の取り次ぎや、贈り物、電報の取り次ぎを行い、メッセージ等の代読を行っています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、外の景色を楽しめるようにしています。 温度管理、トイレ、流し周り等ホーム内を随時巡回や職員が意識をしてみることにより、清掃や衛生管理に努めています。	建物内は開放的で明るい空間となっています。ホール、廊下、各居室に温湿度計を設置して意識的に感染症予防に努め、健康的な生活に配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り、気の合う方同士で話を楽しんだり、自分の好きなことをするために食席を利用したり、自由に使っていただいております。居室の扉も本人に任せ、開放しておく方もおります。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った物を居室内に置いたり掲示しています。家族写真や誕生日の色紙を毎年分貼っています。自分好みの物や家族様から持ってきていただいた物は受け入れるようにしています。	使い慣れたタンスを置いたり、好みの飾り付けをして自分の生活の場としており、利用者それぞれが安心して生活できるよう職員は気配りしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、杖、歩行器、シルバーカーの点検を定期的に行い、安全に使えるようにしています。文字や色で自室がわかりやすいようにしています。		